



自然と経済との関係

石橋, 五郎

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 1(4):489-516

(Issue Date)

1906-09

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051049>



自然ト經濟トノ關係

神戸高等商業學校教授

文學士 石橋 五郎

第一章 緒論

シユモラー嘗テ其著『國民經濟原論』ニ於テ論シテ曰ク、

人類、人類社會及國民經濟ハ、地皮ノ表面上ニ活動スル有機的の生活ノ一部ナリ、總テ國民經濟上ノ諸現象カ宏大ナル自然的の序列ノ一部タルコトハ、政治的及精神的の生活カ之レニ對スル關係ヨリモ一層確實ニシテ疑フヘカラサル事ニ屬ス、自然ノ法則ハ人力ノ及ハサル物理界化學界若クハ有機界ヲ支配スルカ如ク、亦能ク國民經濟上ノ諸現象ヲ支配スルモノナリ、自然ノ大法ヲ離レテ國民經濟ハ其存立ヲ許ササルモノトス(Schmoller, Grundriss I. S. 126)

自然ト經濟トノ關係夫此ノ如ク相離ルヘカラサルニ拘ラス、古來此兩者間ノ關係ニ就テハ其研究遅々トシテ振ハス、今日ノ狀態ヲ以テシテモ尙ホ且ツ其進歩ノ遅キ實ニ吾人ノ意想外トスル所ナリ、是レ蓋シ一方ニ於テハ自然現象ノ主トシテ

研究セラルヘキ地理學カ古來其名 Geographic (地球ノ記述)ノ示ス如ク、單ニ地球上ノ諸現象ノ記述ニ止リ、地表上ニ棲息スル人類トノ關係等ニ就テハ全ク度外ニ措カレタルト、他方ニ於テハ經濟學カ獨立ノ學問トシテノ發達未タ遠カラス、而カモ其研究カ恰モ地理學ト反對ニ餘リニ重キヲ人類ノ活動ノミニ措キ、自然トノ關係ニ留意スルコト少ナカリシニ因ラスンハアラサルナリ、斯クシテ自然ト經濟トハ兩々相接スヘクシテ實ハ相離レ以テ兩者ノ關係ノ研究カ等閑ニ附セラレ居タリシナリ、然リト雖モ此兩者間ニ動カス可ラサル關係ノ存スルコトハ炳焉タル事實ナルヲ以テ、古來ノ學者往々之レニ對シテ其說ヲ出セルモノナキニシモアラス、世ヲ易フルニ從テ之ニ關スル研究漸次其歩武ヲ進メ、今ヤ漸ク之レヲ以テ地理學經濟學ノ基本要素ノ一部トセラルルニ至レリ、依テ下ニ此關係ニ對スル古來ヨリノ研究ノ變遷ヲ述ヘ併セテ之レカ今日地理學上經濟學上如何ナル地位ヲ占ムルヤヲ論セント欲ス、

抑モ自然ト經濟トノ間ニ離ルヘカラサル關係ノ存スルコトハ、夙ニ希臘時代ニ於テ認識セラレタリト雖モ、當時未タ自然ト經濟トハ直ニ其研究ノ對象トナラスシテ、唯自然中ノ氣候ト經濟生活ヲ包有スル一般人類生活トノ關係ニ着眼シタリ

シナリ、而シテ之レニ關スル最モ古キ學者ハ恐クハ彼ノヒポクラテス (Hippocrates 460 B.C.—361 B.C.) ナルヘシ、彼ハ氣候殊ニ季節 (Jahreszeiten, Season) ニ重キヲ措キ、人生殊ニ國民ノ性格ハ此季節ニヨリテ構成セラレ、從テ人類ノ社會的活動ハ皆季節ノ結果ナリトセリ、(1)

註(1)ヒポクラテスニ從ヘハ南方暑熱ニシテ氣候ノ變化少ナキ國ニアリテハ其住民ハ平和ヲ愛シ心靈的思索ニ耽ル傾向ヲ有ス之レニ反シテ北方寒暑ノ差激甚ナル地方ニ至リテハ民多クハ武ニ勇ムト雖モ學術技藝ノ發達ニ必要ナル恒心ヲ缺クヲ以テ亦物質的文明ノ進歩ヲ期シ難シト這般ノ思想ハ今日ニ於テハ敢テ何等ノ奇ナシト雖モ希臘時代ニ於テ既ニ知了セラレ居タリシコトハ蓋シ注目ノ價值ナクンハアラス

ヒポクラテス以後其思想ヲ承ケテ、氣候ニヨリテ社會狀態ヲ解釋セント試ミタル學者ノ中ニハ、ボダン (Bodin) ノ如キ極端論者ヲ出シタルカ、(2)此派ニ屬スル學者ノ翹楚トモ謂フヘキモノハ彼ノモンテスキュー (Montesquieu 1689—1755) ナルヘキカ、彼ハ其著 *Esprit des lois* 14—18 ニ於テ自然ト社會狀態及國民性格トノ關係ニ就テ論スル所アリタリキ、然レトモ、氏ノ本領ハ寧ロ政治的方面ノ觀察ニアリタルヲ以テ、經濟的方面ニ關スル觀察ハ未タ精シト云フヘカラス、

註(2)ボダンノ說ニヨレハ人類ハ外界ヨリ溫熱ヲ享クルコト尠ナル丈益々内部ニ之

レチ有スルヲ以テ寒地ノ人類カ往々活動スルコトアルハ是レ其内部ノ溫熱ヲ放散セントスルモノニ外ナラサルナリト

要スルニ古代ヨリ中世迄ノ間ニ於テ自然ト人事トノ關係ニ着眼シタルハ多ク哲學者ナリシヲ以テ、皆重キヲ自然ト人類ノ性格トノ關係ニ措キ、經濟トノ關係ニ至リテハ一般ニ未タ十分ナル考慮ヲ拂ハサリキ、

然ルニ中世ノ末葉ニ及ヒ、經濟思想ノ發展ニ伴ヒテ自然ニ對スル研究ハ經濟學者ニヨリテモ亦爲サルルニ至レリ、而シテ古代哲學者ノ攻究時代ニ於ケル自然上ノ對象ハ專ラ『氣候』ナリシカ茲ニ至リテ『土地』ヲ以テ其標目トセラレタリ、即チ自然カ人事上經濟上ニ與フル影響ハ、氣候ヨリ受クル直接的ノソレヨリモ土地ヨリ受クル間接的ノソレノ方ヲ大ナリト認メラレタルナリ、殊ニ彼ノ重農學派ノ鼻祖トモ稱スヘキケズナー (Francis Quesney) 佛ニ出ツルニ及ヒ、土地ハ生産要素ノ第一トセララルニ至リシカハ、經濟學上ニ於ケル自然ノ研究ハ專ラ此ノ土地ノ上ニ向ケラレタリ、而シテ是レヨリ後歐洲ニ於ケル歷代ノ經濟學者ハ、自然ヲ以テ經濟學ノ範疇ニ加フルニ至リ又自然ナルモノノ範圍モ土地以外ニ擴張セラレタレトモ尙ホ經濟學中ニ於テ自然ハ主トシテ生産要素ノ中ニ其地位ヲ占ムルニ過キスシテ

以テ十九世紀ノ中葉ニ及ヘリ、

然リト雖モ自然ヲ以テ單ニ生産要素トシテノミ觀察スルハ固ヨリ妥當ニアラス、自然ハ生産以外一般經濟上ニ關係ヲ有スルコト勿論ナレハ、十九世紀ノ末葉ニ及ンテハ、經濟學者ハ自然ヲ以テ明ニ一般經濟ノ根本要素トシテ認識スルニ至レリ、即チ此種ニ屬スル學者トシテハ先キニコーン(Philippovich)アリシユモラー(Schmoller)アリコーンハ其著『國民經濟』ニ於テ『經濟生活ノ要素』(die Element des Wirtschaftslebens)トシテ自然ヲ第一ニ置キ、自然カ經濟ニ與フル影響ト文明ガ自然ニ與フル影響トヲ對照シテ、能ク自然ト經濟トノ關係ヲ解説シタリキ、唯當時未タ自然其物ノ研究進歩セサリシカハ、ニコーンノ對自然觀ハ尙ホ十分ニ吾人ヲ首肯セシムルニ足ラサリキ、然レトモ此等ノ著書ニヨリテ自然カ經濟全體ノ根本要素タルコトヲ認メラレタレハ、フイリポウイチシユモラー亦此衣鉢ヲ承ケ前者ハ其著『經濟原論』第二編ニ於テ『國民經濟發達ノ條件』(Die Entwicklungsbedingungen der Volkswirtschaft)ノ第一トシテ自然的條件(Naturbedingungen)ヲ舉ケ、後者ハ亦其著『國民經濟原論』第一卷第一編ニ於テ『國民經濟ノ總括的現象及要素トシテノ土地人類及技術』(Land, Leute und Technik als Massenerscheinungen

und Element der Volkswirtschaft)ノ名稱ノ下ニ共ニ一般自然界ノ現象ヲ記述シタリ、斯ノ如クニシテ今ヤ自然ナルモノハ一般經濟ノ研究ニ必要缺クヘカラサルモノトナリタリト雖モ、若シ吾人ヲシテ忌憚ナク之レヲ言ハシメハ、シユモラーノ如キハ、能ク自然界ニ關スル智識ノ大綱ヲ網羅シタリト雖モ、憾ムラクハ單ニ自然的事實ノ經濟學的記述ニ止マリ、自然ニ對スル概括的法則若クハ傾向等ニハ及ハサルヤノ觀アレハ、之レヲ以テ能ク經濟學上ノ基本智識トナリ得ヘキカラ疑フナリ、フイリポウイツチハ其概括的ナルコトハ稍優レリト雖モ其記述餘リニ簡單ニ過キ、亦以テ經濟學上ノ一般條件トシテ擧ケタルモノトシテ果シテ其價アリヤ疑ナキ能ハサルナリ、然シナカラ這般ノ事、恐クハ經濟學者ノ罪ニアラスシテ實ハ經濟學者ニ其自然的事項ノ概括的正確ナル智識ヲ提供スル地理學ノ發達カ未タ其堂ニ達セサルニ職由セスンハアラサルナリ、

地理學ハ今日ニ於テハ言フ迄モナク自然科學ノ一種ナリ、然レトモ地理學カ科學トシテノ價值ヲ有スルニ至リシハ極メテ近世ノ事ニ屬シ、八十年以前マテハ地理學ハ唯地皮上ノ諸現象ノ記述ニ止マリ、其諸現象相互間ノ關係、殊ニ地ト人トノ關係ノ如キハ措テ問ハサリシナリ、然ルニ彼ノリツテル (Ritter) カ一八二二年『人類

ノ歴史ト自然トノ關係ヨリ見タル地理學』(Erdkunde im Verhältnis zur Natur und Gesellschaft der Menschheit)ヲ著スニ及ヒ茲ニ始メテ人類生活ト自然現象トノ間ニ依從ノ關係アルコトヲ地學上ヨリ提醒シ世ノ地理學者ノ長夢ヲ破リシカハ、是ヨリ地理學ノ科學トシテノ基礎ハ置カレタリ、ロツシエルカ地理學ノ此進歩ニ對シテ、是レ近世科學ノ最モ優等ナル進歩ナリト叫ビシヲ見レハ、(Roscher, Grundlagen. S. 97 § 37)經濟學者モ亦此進歩ニ對シテ多大ノ興趣ヲ感セシヲ知ル、然レトモリツテルノ研究ハ經濟上ヨリ見レハ未タ其價值大ナリト云フヘカラサリキ、其ノ後佛ニグヤウー(Guyot)アリ英ニバツクル(Buck)アリ獨ニベールス(Boers)ベツシエルス(Peschels)アリテ共ニ自然ト人類トノ關係ヲ研究セシカ、皆多クハ人類學的政治的方面ニ偏シテ經濟的方面ニ及フモノナカリキ、

斯クテ十九世紀ノ末葉ニ及ンテ彼ノラツェル(F. Ratzel)アリ一八八二年『人類地理學』(Anthropo Geographie)ノ著アリ名聲噴々タリシカ、次テ『政治地理學』(Politische Geographie)『自然ト人生』(Die Erde und Das Leben)ノ著アリ、能ク自然ト人類トノ社會上政治上經濟上ノ關係ヲ研究シタルノミナラス、一般生物ガ地球ト相依從スル關係ヲモ攻究セリ、シュモラーノ自然ニ對スル説述ハラツツエルニ負フ所甚々大ナ

ルヲ見ル、然レトモラツツエルノ研究ハ人類、生物、及政治ノ三方面ニ互ルモ、特ニ自然ト經濟生活トノ關係ニ就テノ攻究ハ氏ト雖モ未タ完シト云フヘカラス、ラツツエル既ニ然リ況ンヤ其他ノ地理學者ニ於テハ經濟ト自然トノ關係ニ就テ科學的説明ヲ加ヘタルモノ甚タ少ナシ、尤モ氏ト殆ンド前後シテ自然ト經濟トノ關係ヲ研究スル經濟地理學 (Wirtschaftsgeographie) ノ一派獨逸ノゲッツ (Götze) 等ニヨリテ起サレ、其後英、獨、佛ニ之レヲ以テ専門トスル學者出テサルニ非サルモ、今日尙ホ殆ント斯界ノ「オーソリチー」ヲ見出スニ苦ム狀況ナルヲ以テ、經濟學者ノ自然ニ對スル所説カ其渾成ノ域ニ達セサル蓋シ宜ナリト云フヘシ、然レトモ吾人地理學ヲ修ムル者ヨリ見レハ、經濟學者ノ説述以外ニ尙ホ幾分ノ所説ナクンハアラス、依テ吾人ハラツツエルヲ初メトシ諸地理學者ノ所説ニ基キ、私見ヲ加ヘ、下ニ自然ト經濟トノ關係ニ就テ聊カ研究ヲ試ミント欲ス、但シ自然事項ノ如何ナル部分マテカ經濟ト相關係スヘキヤ等ノ論議ニ至リテハ、方ニ經濟學ノ攻究スヘキ所、吾人固ヨリ其任ニ非ス、吾人ハ唯地理學ノ側ヨリ見テ自然ノ地理的事項カ如何ニ經濟ニ關係ヲ有スルヤニ就テ稍々概括的原則ト見做スヘキモノヲ述ヘ之レヲ解説スルニ止メント欲ス、

第二章 自然ノ形態カ經濟ニ及ホス影響

吾人茲ニ自然ト經濟トノ關係ヲ論スルニ當リテ、自然ヲ便宜上其形態ト其勢力トニ分ツヘシ、而シテ自然ノ形態ハ地學理上、左ノ二種ニ分ツコトヲ得、

甲、水平的形態 (Horizontale Gliederung) 卽チ地形

乙、垂直的形態 (Vertikale Gliederung) 卽チ地勢

而シテ若シ此兩者ノ經濟ニ關スル性質ヲ大觀スレハ、前者ハ主トシテ經濟學上ノ所謂交換ノ狀態ニ影響ヲ與ヘ、後者ハ主トシテ生產狀態ニ影響ヲ與フルモノナリト云フヲ得ベシ、然レトモ是レ大體ノ觀察ニシテ兩者トモ各生產交換其他ノ經濟狀態ニモ影響ヲ與フルコト勿論ナルヲ以テ、下ニ兩者ノ經濟ニ及ホス影響ヲ細論セント欲ス、

第一節 水平的狀態カ經濟ニ及ホス影響

水平的形態ハ卽チ國土ノ地形ヲ意味スレトモ、他國ニ對スル其國ノ地理上ノ位置モ亦此中ニ屬セシムルコトヲ得、而シテ先ツ國土ノ地形ニ就テ觀ルニ、若シ水陸離接上ノ標準ヲ以テセハ、國土ハ (1) 接壤國 (2) 半島國 (3) 島國ノ三種ニ分ツヲ得ヘク、若シ國土其自身ノ形狀ヲ以テセハ或ハ方或ハ圓千差萬態ナルヘシ、而シテ此等地

形ニヨリ經濟上ニ與フル影響ノ相異ナルコトモ亦自然ノ數ナルヘシ、今其重ナル點ヲ舉クレハ下ノ如シ

(一)水陸離接ニヨリテ分タレタル三種ノ地形中、經濟發達ノ點ヨリ之レヲ比較スル時ハ島國最モ確實ニシテ(3)半島國之レニ次キ、接壤國ニ至リテハ其榮枯盛衰甚タ常ナキヲ見ル、見ヨ古來島國ニシテ一旦經濟上ノ發展ヲナシタル國土ハ概ネ其發達確實ニシテ盛衰ノ變甚タ少ナシ、我邦然リ、英國然リ、若クハ蘭領瓜哇島スラ尙且ツ大ナル榮枯ナキニアラスヤ、是レ念フニ島國ハ其交通極メテ便ナレハ、若シ其國土ノ政治經濟狀態退步シテ不振ニ陷ル時ハ、忽チ他ノ優秀ナル民族カ取リテ代ルコト容易ナレハ、島國ハ或ハ自發的ニ或ハ他制的ニ其經濟狀態ノ改善ヲ圖リ以テ其隆替ヲ少ナカラシムルニ據ラスンハアラサルナリ、日英ノ如キハ其前者ニ屬シフイリビン、キユバ若クハ我臺灣ノ如キハ其後者ニ屬スルモノナルヘシ、

註(3)島國カ經濟上ノ發達確實ナルコトニ就テ英國ト葡萄牙國トノ比較最モ興味アルヘシ、葡萄牙ハ溫帶ニ位シ地味肥沃ニシテ河川ノ利多ク背後ニ山嶽アリテ自然ノ障壁チナシ政治的保障チ形成シ殆ント島國タルノ姿チ有スルニモ拘ラス其ノ經濟狀態カ英國ノソレト非常ナル逕庭アルハ其國文カ島國タル英國ノ如ク絶對的ニ隔絶セラレサル爲ナリ (Lyde, Man and his Market, p. 17)

之レニ反シテ半島ニ在リテハ一時文明ノ精華此ニ開クト雖モ又忽チニシテ凋落スルモノ多シ、希臘然リ伊太利然リ西班牙亦然リ、然レトモ根底ヨリ其文化ノ覆サルルコトハ蓋シ稀ナリ、故ニ經濟狀態ニ於テモ島國ノ如ク爾ク安全ナラスト雖モ尙ホ不斷ノ命脈ヲ傳ヘテ再興ノ氣運ニ向ハシムルコトアリ、唯夫レ接壤國土ニ至リテハ其隆替頗ル激甚ニシテ一旦興隆セル文化カ全ク地ニ委シテ復起ツコト能ハサル類例甚タ乏シカラス、古代埃及ノ文明ノ如キ波斯文明ノ如キ若クハ南米ニ於ケルインカ帝國ノ文明ノ如キ孰レモ今ヤ全ク其痕跡ヲタモ存セサルニ非スヤ、是等ハ一般文明ニ就テノ觀察ナレトモ其經濟狀態カ亦之レニ伴ヒテ隆替スルコト勿論ナリトス、

(二)次ニハ國土其自身ノ形狀カ經濟ニ及ホス影響ナリ、之レニ對シテ最モ著シキモノヲ求ムレハ、其國土カ南北ニ長キカ或ハ東西ニ延フルカノ關係ニヨリテ其經濟上ニ及ホス影響ナリ、若シ其形狀前者ニ屬スルモノナランニハ氣候上ノ關係ヨリシテ其國土内ノ物産ハ多種多樣ナルヘキ筈ナリトス、故ニ此種ノ國土ニアリテハ能ク經濟上ノ獨立ヲ保チ得ヘク從テ其國經濟ノ基礎鞏固ナルヘキ筈ナリ、我國カ數百年來能ク鎖國ヲナシ得タル所以ノモノ蓋シ這般ノ理由ニ基クニ非スヤ、之

レニ反シテ大奈翁カ行ヒタル彼ノ大陸封鎖 (Continental System) ガ忽チニシテ破レシ所以ノモノハ、之レヲ地理上ヨリ見レハ其ノ同盟諸國カ地形上ノ關係ニヨリテ、經濟上ノ獨立ヲナスニ困難ナリシ爲メトモ解釋シ得ラルヘキナリ

以上ハ總テ國土ノ形狀ノミニ就テノ觀察ナルカ、若夫其國土ト他國土トノ地理的關係ニ至リテハ、他隣接國ニ對スル交通便宜ノ位置ヲ占ムルモノヨク經濟上ノ發達ヲナシ得ヘキコト勿論ナリトス(4)

註(4)英國ノ產業發達ハ一方ニハ内地製造工業ノ發達ニ起因スヘシト雖モ他方ニ於テ其地理上ノ地位カ消費地タル歐洲大陸ヲ對岸ニ有セシコト重ナル原因タルコト亦明カナル事實ナリ又中世伊太利ノヴェニスカ盛大トナリシモ十字軍ノ爲メニ其國ノ地位カ恰モ生産地タル歐洲ト消費地タル小亞細亞地方トノ中間ニアリシコトモ亦既ニ人ノ知ル所ナリトス

第二節 垂直的形態カ經濟ニ及ホス影響

垂直的形態即チ地勢ナルモノハ山、河、湖、沼、原野カ如何ニ排置セラルルヤニ在リ、故ニ吾人ハ主トシテ此三者ガ經濟ニ如何ニ影響スルヤヲ述フヘシ、而シテ此地勢ナルモノハ、前述ノ如ク主トシテ生産ニ影響ヲ與フルモ、交通商業等ノ交易狀態ニ與フル影響モ亦甚タ大ナルモノアリ、故ニ今此兩者ニ就テ自然トノ關係ヲ分説スヘシ、

(一)地勢カ生産ニ及ホス影響

地勢ノ如何ハ生産ノ多寡ニ關係ヲ有スルコト

勿論ニシテ、中ニモ原野ノ多少ニ關スルコト大ナリ而シテ原野ノ中殊ニ平原(海面上二百米以下ノ原野)ハ最モ多ク生産力ヲ有スルモノナルコトハ、世界人民ノ九割ハ平原ニ住ム事實ニヨリテ證明セラルヘシ、故ニ其地方ニ於ケル生産力ノ多少ハ略其地方ニ於ケル平原ノ廣狹ニヨリテ決セラルヘシ、(5)

註(5)

歐洲ニテハ平原ト山嶽地方ト相半ハシ、亞細亞、阿弗利加、及濠洲ニテハ山嶽地方寧ろ平原ヨリモ大ニ米大陸ハ平原遙カニ山嶽地方ヨリモ多シ此關係カ各大陸ノ生産上ノ現狀ヲ説明スルニ非スヤ

以上ハ主トシテ農業の生産ニ就テノ觀察ナリト雖モ、他ノ産業例ヘハ鑛業、林業ノ如キハ山嶽地方漁業ニ於テハ河湖カ重要ナルコト勿論ナリ、唯工業ニ就テハ手工業ノ如キハ往々山嶽地方ニ發達スルモ、大工業ニ就テ近時一般ニ其原料若クハ燃料ノ主トシテ存スル山嶽地方ヨリハ、寧ろ水運ノ便アル河湖地方ニ盛ナルノ傾アリトス、(6)

註(6)

例ヘハ近時盛大トナリツヘアル米國イーリー湖畔ノ製鐵事業ノ如シ其原料及燃料共ニ他ノ岳陵地方ヨリ仰グモノトス

(二)地勢カ商業、交通ニ及ホス影響 此關係ニ就テ山河、原野ヲ比較センニ山ハ

商業交通ノ妨害ヲナシ消極的性質ヲ有ス之ニ反シテ河ハ自然ノ通路ニシテ積極的性質ヲ有ス、原野ニ至リテハ之レヲ利用スルトセサルトニヨリテ或ハ交通ヲ助ケ或ハ之レヲ妨クル中性的性質ヲ有スルモノト云フヲ得ヘシ、然レトモ尙此等三者ノ性質ヲ解析スレハ、山ハ本來假令交通ノ妨害ヲナスト雖モ其山脈ノ方向ニ依リテ其妨害ノ程度ヲ異ニスルコトヲ注意スヘシ、即チ概言スレハ、東西ニ互ル横山脈ハ多クハ交通上非常ナル妨害トナレトモ南北ニ連ル縦山脈ハ甚シキ妨害トナラス、故ニ横山脈ハ國土ヲ經濟上ニ分割シ從テ其兩側ニハ異ナル國家ヲ生スルヲ以テ通則トスレトモ、縦山脈ニ在リテハ殆ント此事ナキヲ見ルナリ(7)、是レ山脈成形ノ理由上横山脈ニハ交通々路ヲ見出スコト難キニ反シ、縦山脈ニ在リテハ能ク緯峽ヲ見出シ得ルニヨリテ交通比較的容易ナルニ職由セスンハアラサルナリ(8)

註(7)所謂ブーエー(M. Bone)氏ノ方則ヨリ推開シタル斷案ナリ此方則ヲ證スル類例ハ頗ル多シ例ヘハ横山脈カ政治上經濟上ノ分界線タルコトハ彼ノヒマラヤ山脈ニ見ヨ、彼ノアルプスニ見ヨ、ピレニースニ見ヨ、之レニ反シテ縦山脈カ毫モ其分界線タラサルコトハ彼ノアペナイン山脈ニ見ヨ米ノアレガニ一山脈ニ見ヨロツキー山脈ニ見ヨ皆然ラサルナシロシヤノ東方膨脹ハ其歐露ノ境ヲ限ルウラル山脈カ縦脈ニシテ毫モ交通上ノ障害タラサリシコト亦大ナル原因ナリ唯此ノ原則ニ對シテ最モ著シキ例外トシテ見ルヘキハ彼ノアンテス山脈カチリ、アルゼンチン二國ヲ限リ經濟上ニモ殆ント其連絡ナキコト是ナリ然レトモ是レ別ニ事情ノ存スルモノアリ即チ

此二邦ハ何レモ西班牙人ノ後裔ナルニ西班牙人由來悍驚ヲ以テ聞ス豈ニ母國ニ叛テ數多獨立國ヲ南米ニ樹立シ彼ノ二邦モ其中ニ屬スト雖モ爾來屢々相攻伐シ相紛爭シ調和スルコトナカリキ故ニアシテスカ此二國ヲ限ル所以ノモノハ地理的ニ非スシテ政治的ナリト云フヘキナリ

註

(8) 橫山脈ハ高嶺重疊シテ其通峽ヲ見出スコト困難ナリヒマラヤビレニ未タ一條

ノ鐵路ヲ見スアルプスカ世界最大ノ隧道ニヨリテ僅カニ南北ヲ通スルヲ見レハ如何ニ其通峽ヲ見出シ難カリシヤチ知ルニ足ル之ニ反シテ縱山脈ハ比較的縛峽アルコトハ彼ノロツキーノ如キ大山脈スラ之レヲ越ヘテ鐵路ヲ通スルニヨリテモ知ラルヘクアンデス亦將ニ橫斷鐵道ヲ通セントシツヘアリ、昔昔支那カ西域トノ唯一ノ交通路ハヒマラヤノ北ニ連ル縱山脈葱嶺ニアリシコトモ亦此事實ヲ證スルモノト云フヘシ

次ニ然ラハ河湖ハ如何、古代ニアリテハ此兩者ハ寧ロ交通ノ妨害タリシカ、今ヤ全ク其消極的意味ヲ失ヒ殆ント積極的意味ヲノミ存スルニ至レリ、而シテ此關係ハ又商業上ニモ多大ノ影響ヲ與ヘ商業ト河川トハ不可離ノ關係ヲ生スルニ至レリ、而シテ湖沼ニ就テハ姑ク此ニ省キ、河川ニ就テ其商業的關係ヲ求ムレハ、吾人ハ下ノ通則ヲ發見スルモノナリ、即チ

東西流ノ横河ハ主トシテ外國貿易ニ利用セラレ、南北流ノ縱河ハ主トシテ内地商業ノ爲メニ利用セララルコト

是レナリ(9) 何ヲ以テ之ヲ言フヤ、蓋シ東西流ノ河川ハ一方ニ地理學上ヨリ見レハ

重ニ大河之レニ屬シ(殊ニ熱帶溫帶ニ於テ)⁽¹⁰⁾從テ此等ノ河川カ能ク大洋航船ヲ入ルルニ便ナルコトト、他方ニ於テ横河ハ概テ同緯度地方ヲ流ルルヲ以テ、其上下流域地方ノ物產ニ大ナル變化ナク内地商業ニハ不適當ナル事情ニヨリ之ヲ外國貿易ニ利用セラルルニ便ナレハナリ、之ニ反シテ南北流ノ河川ハ概テ山河ナルト⁽¹¹⁾前述ノ横河ト反對ノ理由トニヨリテ、上下流互ニ相異ナル物產ヲ相交換セサルヘカラサル必要上内地商業ニ利用セラルルニ至ラスンハアラサルナリ⁽¹²⁾、

註(9)横河ノ例トシテハ楊子江アリダニユーブアリセントローレンスアリアマゾンアリ、縦河ノ例トシテハメコン、ボルガ、ミスシツビー、ラブラダアリ彼是相對照シテ其商業上ニ於ケル關係ヲ知ラハ思半ニ過クルモノアルヘシ

註(10)横河ニ大河アルハ貿易風、地球自轉等ノ理由ニ基ク

註(11)例外トシテハ彼ノミスシツビーノ如キ著大ナル河アレトモ之レ其流域カ二大縦山脈ノ間ニ介在スル故縦河トナリシモノニシテ特殊ノ場合ナリトス

註(12)米國カ疊ニ南北戰爭ヲ以テシテモ今日尙ホ南北ノ結合爾ク鞏固ナルハミスシツビーガ内國商業ノ締結ニ多大ノ關係ヲ有スル爲メト解釋シ得サルニモアラサルヘシ

次ニ原野ト交通トノ關係ニ至リテハ細說スルヲ要セス、近世鐵道ノ發達頗ル顯著ナルニ及ンテハ、原野ハ鐵道交通ト非常ニ密接ナル關係ヲ有シ來リシコト勿論ナリ、北米合衆國カ世界最長ノ鐵道ヲ有セル、白耳義カ其面積ニ比シテ鐵道ノ多キ

世界第一ニ在ル、皆其國土ノ大部分カ原野ヨリ成立ツ賜ト稱スヘキナリ、

第三章 自然ノ勢力カ經濟ニ及ホス影響

經濟學者ノ或ル者ハ自然ノ勢力ヲ(一)原始的の自然力(Original Natural Power)ト(二)誘導的の自然力(Delivative N. P.)ノ二種ニ區別スト雖モ、此ニ論セントスル所ハ主トシテ原始的の自然力ニ屬スルモノナリ、而シテ此種ノ自然力ハ之レヲ地理學上ヨリ分ツ時ハ下ノ三種トナスヲ得ヘキカ、

(一)氣力 (二)地力 (三)水力

第一ノ氣力ハ茲ニテハ空氣ニ關スル勢力ニシテ重ニ氣候ヲ謂ヒ、第二ノ地力ハ主トシテ地味ヲ意味シ第三ノ水力ハ海洋中ニアリテハ潮流潮汐地上ニアリテハ河湖ノ有スル勢力ヲ意味スルナリ、而シテ此三者ノ中今日經濟ニ最モ多ク影響ヲ與フルモノハ氣力ニシテ次ハ地力次ハ水力ナルヘシ、今更ニ此三者カ如何ニ經濟ニ影響スルヤヲ細論スヘシ

第一節 氣力ノ經濟ニ及ホス影響

所謂自然カ經濟ニ及ホス影響ノ中氣力即チ氣候ノ影響程大ナルモノハ非サルヘシ、歐洲ノ文化ニ進メル亞弗利加カ世界最古ノ文明ヲ有シナカラ今日其文化五

大洲ノ末班ニ位スル其直接原因ハ皆氣候ナリト稱スルヲ得ヘク、希臘時代ニ於ケル哲學者カ自然是氣候ナリト考ヘタル敢テ怪ムニ足ラス、而シテ此氣候カ經濟ニ及ホス影響ハ主トシテ生産上ニ存スレトモ、交易消費ノ上ニモ存スルナリ、今氣候ヲ(一)溫 (Wärme) (二)濕 (Feuchtigkeit) (三)風 (Wind) ヨリ成立ツモノトシ此三者カ上ノ三状態ニ與フル影響ヲ述フヘシ、

(一)氣候カ生産ニ及ホス影響 此種ノ影響トシテ最モ著名ナルモノハ(イ)動植物ノ生育ニ關スルモノト(ロ)人類ノ勞働ニ關スルモノノ二種ナリ、左ニ之レヲ分說セン、

(イ)動植物カ經濟生活上頗ル重大ナル地位ヲ占ムルコトハ、シユモラーカ經濟行爲ノ大部ハ此ノ二者ヲ制シテ人類ノ目的ニ副ハシムルニ在リ (Schmoller. Grund. S. 135) ト言ヒシヲ以テモ知ルヘシ、然ルニ此動植物生育状態ハ主トシテ氣候ニヨリテ定マル(13)モノニシテ、之ニ就テ吾人ハ下ノ通則ヲ有スルナリ、即チ一般ニ溫ハ生物ノ變種 (Variation) ニ影響シ、濕ハ其生産ノ多寡ニ影響ス、反言スレハ前者ハ資質的 (Qualitative) ニシテ後者ハ分量的 (Quantitative) ナリ、

註(13)氣候帶 (Klimagebiete) 々同時ニ生物ノ自然帶 (Naturgebiete des Lebens) ナリ (Eckert, Handelsgeog. S. 27)

故ニ一地方ノ動植物生産力ヲ知ラントセハ須ク其濕度ニ注意スルヲ要ス尤モ
溫度高キ時ハ濕度モ高キコトヲ通例トスレトモ、若シ同一溫度ニ於テハ濕度ノ高
キヲ以テ生産ニ益アリトスルナリ(14)

註(14)ラブランド地方ノ松柏科ノ植物ハ唯矮小ナル灌木ニ過キサハ是レ寒氣ノ爲メ
ニ然ルニ非スシテ寧ロ濕氣ノ不足セルニ在リ(Ratzel, Erde II. S. 515)又動物ノ生育ニモ
濕氣ノ必要ナルコトハ世界牧羊國ノ牧羊數カ正確ニ其地ノ雨量ト比例スルモノナ
ルニテ知ラルヘシ(Eckert, Handelsgeog. I. S. 30 所載ノ表參照)

而シテ此濕度カ生物生育ノ主ナル要素タルコト又人類ノ生活ニ作用シテ多濕
ナル熱帶地方カ乾燥セル寒帶地方ニ比シテ人口多キ原因トナルナリ、

(ロ)氣候カ人類ノ勞働力ニ及ホス影響モ亦顯著ナル事實ニシテ、人類ハ攝氏二十
度以上ニ及フ時ハ其先天的ニ有スル勞働心ヲ減セシムルモノニシテ二十五度以
上ニ及ヘハ殆ント之レヲ止ムルモノナリ(Erde. II. S. 542)故ニ人ノ勞働力カ熱帶
地方ニ於テ十分ニ使用セラレサル固ヨリ當然ナリトス(15)然リト雖モ寒帶地方ニ
於テモ亦同様ノ結果アルコトハ言說ヲ要セサルヘシ、

註(15)熱帶地方ノ住民カ如何ニ勞働ヲ忌ムヤハロツシエル氏ノ經濟原論ニ舉ケタル印
度ノ諺最モ能ク之ヲ盡セリ左ノ如シ

Sitzen ist besser als Stehen, Liegen besser als Sitzen, Schlafen besser als Wachen, und das Allerbeste todt zu sein.
(Roscher, Grundlagen S. 96.)

斯ク氣候ハ人ノ勞働力ノ強弱ニ影響ヲ與フルノミナラス、又其使用ノ期間ニ影響ヲ與ヘ、⁽¹⁶⁾其結果人類ノ生業ノ差異ヲモ來スナリ⁽¹⁷⁾、

註⁽¹⁶⁾中央獨逸ニ於テ自由ニ勞働力ヲ使用シ得ルハ約七ヶ月ニ過キサレトモ、同緯度ノ北露地方ニ比スレハ尙ホ勞働力ノ使用期間長キヲ以テ、此二地方ニ於ケル穀物收穫ノ割合ハ二ト一トノ比ナリ、(Eckert. I. S. 31.)

註⁽¹⁷⁾高緯度地方ニアリテハ一ハ其氣候ノ寒冷ナルト一ハ其夜間ノ長キコトノ爲メニ勞働力使用ノ制限ヲ受ケ此等ノ地方ニハ往々家庭工業起ル、此ノ現象ハ畜ニ高緯度地方ノミナラズ、瑞西ノ如キ山嶽地方ニ於テモ同様ナリ、今日北歐及山嶽地方ニ於テ家庭工業力尙ホ器械工業ニ對立スルハ之レカ爲ナリ、

然レトモ氣候ノ勞働力ニ及ホス影響ニ就テ、經濟上重大ナル關係ヲ有スルハ勞働制度ト農業制度ニ與フル勢力ナリトス、今勞働制度ニ就テ之レヲ見ルニ、例ヘハ熱帶地方ニ於テハ、一方ニハ天與ノ產物饒多ニシテ住民ハ自發的ニ勞働ヲナスノ必要ナキト、他方ニハ其酷熱ハ住民ノ勞働心ヲ奪フ結果、此等ノ地方ニハ往々彼ノ強制的勞働制度 (Zwangarbeit System) 起ルモノナリ、彼ノ奴隸ト云ヒ彼ノ隸農 (Leibeigenschaft) ト云ヒ若クハ苦力制度ノ如キ、皆南方暑熱地方ノ產物ナルヲ思フヘシ、故ニ若シ熱帶地方ニ於テ產業ノ發達ヲ圖ラントセハ、此強制的制度ハ亦止ヲ得サルモノナルヘシ、⁽¹⁸⁾

註(18) サント、ドミンゴ、ハイチノ産業ノ發達セサル、ジャメーカノ夫レノ不振ナル此ノ制度ノ行ハレサル爲ナリ之ヲ反シテ瓜哇ニ於テ和蘭ノ植民政策カ異常ノ成效ヲナシ植民制度ノ模範トナルニ至リシハ全ク和蘭政府力巧ニ此ノ強制制度ヲ行ヒタルニ職由セスンハアラサルナリ

次ニ氣候カ農業制度ニ及ホス影響ニ就テ見ルニ、熱帶地方ハ大規模ノ經營殊ニ大農法行ハルルモ、溫帶寒帶地方ハ概シテ小規模ナルヲ通則トス、是レ熱帶地方ノ勞働ハ強制的ナレハ從テ大量的勞働 (Massenarbeit) ニ適スルヲ以テ自然ノ結果大規模ノ經營ヲナスニ適スルモ、溫寒地方ニアリテハ恰モ其反對ナルニ因ラスンハアラス(19)

註(19) 北方寒冷ナル地方ニモ大農ノ行ハル、場合無キニモアラス例ヘハ北米大陸ノ西北ノ如キ是ナリ然レトモ是レハ地形カ極メテ廣漠タルト一ハ其地方カ寡雨ナル爲メ大規模ノ灌溉法ヲ講スル必要上等ヨリ來ルナリ

以上述フル所ニヨリテ、氣候カ動植物及人類ニ及ホス影響ニ就テ概括的觀察ヲ試ミタルカ、之レニ連關シテ兩者ノ關係上經濟ヨリ見テ重大ナル地位ヲ占ムル彼ノ『風土馴化』(Aklimatisation) ニ就テ述ヘシメヨ、抑モ今日地皮上ニ分布セル千差萬別ノ生物ハ多クハ素ヨリ其地方ニ存セシモノニアラスシテ、概ネ或ハ人爲的ニ或ハ自然的ニ他地方ヨリ移植セラレタルモノナリ、殊ニ文明國ノ生物ニ於テハ此事

實益々顯著ナルヲ見ル(20)斯ク生物カ其故郷ヲ離レテ風土ノ異ナル地方ニ生育スルハ生物ニ『風土馴化』ノ性質ヲ存スルカ爲ナラスンハアラス、若シ生物ニ此性質ナカリセハ吾人ノ經濟生活ハ如何ニ寂莫ナリシナラン、生物ノ風土馴化ハ吾人ノ經濟生活ヲ發達セシムル要件ナリト云フモ敢テ過言ニ非ス、然ラハ即チ各種生物カ風土馴化ノ性質ヲ有スル度合如何ヲ研究シ之レト經濟トノ關係ヲ攷究スルモ亦無用ノ業ニ非サルヘシ、而シテ之レニ就テ吾人ハ畧通則トシテ生物ハ下等ナルモノ程其馴化容易ナルヲ發見スルナリ、例ヘハ植物ニ就テ之ヲ見ンカ、木類ヨリモ草類其馴化力強大ナリ、草類ノ中ニテモ一年生植物ハ馴化最モ容易ナリ、世界ノ人類殊ニ文明國民ガ樹果等ニヨリテ其生ヲ養フコトナク、皆一年生植物ニ依頼スルハ畢竟之レカ爲ナリト稱スルヲ得ヘシ、尤モ樹木ト雖モ敢テ馴化ナキニ非ス而シテ之レヲ暖地ヨリ寒地ニ移スハ難ク、寒地ヨリ暖地ニ移スハ易キ傾向アリト雖モ、要スルニ草類ヨリモ其馴化困難ナリ、古語ニ曰ハスヤ江南ノ橘之レヲ江北ニ移セハ枳トナルト蓋此謂也、若夫動物及人類ニ至リテハ必スシモ如上ノ通則働カサレトモ亦馴化シ易キモノ、劣等種ニ多キ傾向ヲ有スルコトハ則チ一ナリトス、(21)

註(20)今日歐洲ノ植物界ハ殆ント皆他地方ヨリノ移植ニ係ル、例ヘハ彼ノ橄欖樹カバレ

スチナ及シリア地方ヨリ移植セラレタル如キ其一ナリ、又南米ノパンパスニアル生物ハ殆ント皆歐洲ヨリ移植セラレタルモノナリト云フ (Cohn, Z. Oeconom. I. S. 224)

註(21)家畜中犬、羊、牛ハ馴化容易ニシテ馬ハ比較的困難ナリ、人類中支那人、猶太人ハ馴化最モ容易ニシテ葡、西、伊、佛ノ如キ「ラテン」人種ハ中等ニ屬シ「チユートン」人種ニ至リテハ最モ困難ナリトス (Eckert, I. S. 31.)

(二)氣候カ交換ニ及ホス影響 此種ノ影響トシテハ主トシテ交通ノ上ニ存ス、

而シテ其氣候の要素モ生産ニ對スル如ク溫濕ヨリモ寧ロ風力ニ依ル、勿論風力以外ノ氣候の要素モ交通ニ影響ヲ與ヘサルニアラス、例ヘハ嚴寒カ河海ヲ氷結シ過濕カ河川ヲ氾濫セシメテ共ニ交通ノ妨害トナルカ如シ、然レトモ此等ハ消極的方面ニ屬シ、積極的ニ交通ヲ助クルモノトシハ實ニ風力ナルコトハ彼ノ貿易風力如何ニ大洋ノ交通ニ貢獻スルコト多キカヲ以テモ之レヲ知ルヘシ、

(三)氣候カ消費ニ及ホス影響 此種ノ影響トシテロツシエルノ所謂損滅的消

費 (Verlust Consumption) ノ如キハ最モ多ク氣候ノ影響ヲ蒙ルコト勿論ナリト雖モ一般ノ消費ニ對シ氣候ハ先ツ其分量ヲ定ムルモノナリ、例ヘハ熱帶地方ニ於テハ人類ノ生活簡易ナルヲ以テ貨物ノ消費少ナク、(22)溫帶ハ消費大ナル如キ是ナリ、(23)

註(22)熱帶ハ一方ニ於テ消費少ナキニ他方ニ於テ其生産大ナルヲ以テ其結果熱帶地方ノ產物ハ他地方殊ニ溫帶地方ニ消費セラル、運命ヲ有スト云フモ可ナリ故ニ或ル

學者ノ如キハ溫帶ノ國カ熱帶ニ領地ヲ有スルコトヲ以テ其國發達ノ必要條件トスルモノアリ、

註(23)溫帶中ニテハ比較的寒地ニハ寧ロ消費少ナク暖地ニ消費多キ傾向ヲ有ス(Schmol-ler, I. S. 131)

斯クノ如ク氣候ハ雷ニ消費ノ量ヲ定ムルノミナラス、亦能ク其質ヲモ定ムルモノナリ、是レ寒暖ニヨル直接影響ト風俗習慣ヲ通シテノ間接影響トニヨリテ國民ノ衣食住ノ種類ヲ異ニスルコトニヨリテ演繹スルニ難カラサルナリ、

第二節 地力及水力ノ經濟ニ及ホス影響

地力ハ主トシテ其地味ニ存ス而シテ此地味カ經濟ニ及ホス影響ニ就テハ、古來土地カ生産ノ第一要素タル關係上、經濟學者ニヨリテ研究セラレシコト多キヲ以テ今茲ニ細說セス、唯僅カニ地學上ヨリ概括的説明ヲ試ムル時ハ、地力ハ固是氣候ノ產物トモ云フヘキモノナルヲ以テ(24)生産ニ對スル地力ハ氣力ノ從タルヘキコト是ナリ、(25)

註(24)地力ハ土壤ニ宿ル然ルニ土壤ハ多クハ氣力ニ依ル風化作用ノ結果ナリ

註(25)地力カ氣力ノ從タルヘキ理由ニアリ、一ハ上述ノ如ク地力カ氣力ヨリ生シタレハ氣力ノ影響ヲ受クルコト、一ハ生産上ニ於テハ地力到底氣力ノ大ナルニ如カサル

コト是ナリ

地味ト氣候ト比較對照セハ如上ノ事實アルヲ認ムト雖モ、若シ地味ノミニ就テ見レハ亦其肥瘠ニヨリテ經濟上ニ及ホス影響ノ異ナル固ヨリ當然ナリ、唯地味ノ肥沃必シモ人ノ經濟生活ニ好影響ヲ與ヘ得ルトハ謂ヒ難シ瘠土却テ經濟生活ヲ發達セシムルコトアルハ亦一顧ノ價值ナクンハアラス、彼ノフエニシヤノ如キ彼ノ和蘭ノ如キ、所謂商業國ノ發達カ這般ノ事由ニ基クコトアルハ茲ニ贅言ヲ要セサルヘシ、

次ニ水力ノ經濟ニ及ホス影響ニ就テハ、海洋中ニアル潮流ト潮汐カ主トシテ交易ニ影響ヲ與ヘ陸上ヲ流ルル水流カ工業原動力トシテ生産ヲ助クルカ如キ、其最モ顯著ナルモノナレトモ、這般ノ說述ハ今姑ク此ニ略シ唯近世科學應用ノ趨勢ニ從ヘハ、後者ノ水力カ將來經濟生活ヲ指導スル文明ノ最大源泉トナルヘキヲ信スルコト言フニ止メント欲ス、

第四章 結論

吾人ハ前數章ニ於テ自然ト經濟トノ關係ニ就テ專ラ自然カ經濟ニ與フル影響ヲ論シタリト雖モ、更ニ人類ノ經濟生活カ克ク自然ニ影響ヲ與フル事實モ亦比々存スルヲ見ル、而シテ此ノ後者ノ影響ハ之レヲ分テ二トスルコトヲ得、即チ一ハ人

類ノ無意識的ニ自然ニ與フル影響ト、一ハ有意的ニ與フル影響トナリ、例ヘハ人類ノ密集カ其地方ノ氣候ヲ緩和スルカ如キハ前者ニ屬シ、山ヲ穿テ海ヲ埋ムル如キハ其後者ニ屬スルモノナリ、玆ニ於テカ當然ノ結果トシテ自然對人類ノ關係ニ就テ、何レカ多ク人類ノ經濟生活ニ影響ヲ與フルヤノ問題生スヘシ、之レニ對シテ英ノヒューム等ノ如キ所謂理想論者ハ自然ノ威力ヲ排シ、自然ハ唯兩極ヲ立テ地形ヲ造リ地理上ノ位置ヲ定メタルニ過キスシテ宇宙ノ他ノ諸事象ハ悉ク人類開化ノ賜ナリトセリ、之ニ反シテ佛ノモンテスキュー等ノ如キ現實論者ハ自然ヲ過大視シ、凡ソ一國民カ其開化ヲ進メ得ル限度ハ其國民ノ能力ニ非スシテ其國ノ地理的事情ニヨリテ定マルモノナリトセリ、(26)

註(26)此ノ二派ノ系統所說ノ稍精密ナル記述ハ Schmoller, Grunds. S. 135 ff. 參照

然レトモ此二派ハ何レモ一方ニ偏シテ共ニ誤謬アルコトヲ免レス、今所謂理想派ナルモノヲ批評センニ、彼等カ自然ヲ排スルハ二個ノ觀念ニ基ク、一ハ自然ト人類ノ生活トノ間ニハ何等ノ連鎖ナキモノナリトスルコト、一ハ縱令自然ハ人類ニ對シ威力アリトスルモ、人類ハ、ヨリ以上ノ文明ノ力ニヨリテ遂ニ之レヲ克服シ得ヘシトノ觀念是ナリ、而シテ第一觀念ノ正シキコトヲ證セントシテ彼等ハ彼ノ希

臘ノ如ク、同一ノ地方ニテアリナカラ時ニヨリテ其國民生活ノ狀態カ著シク異ナルモノアルハ是レ其國ノ地理即チ自然カ其國民生活ニ何等ノ關係ナキ徵證ナラスヤト論シタリ、然レトモ此ニ對シテラツツエルノナセシ反駁最モ明快ナリ、彼ハ曰ク、一國ノ文化カ地理的影響ヲ蒙ルハ唯其國ノ地理ニノミ因ルトスルハ誤レリ、一國民生活ノ地理的影響ハ其國以外地方ノ地理ヨリモ來ルモノトス、既ニ然リ故ニ其外圍ノ地理カ或ハ發見ニヨリ或ハ開拓ニヨリ變スル場合ニハ、其國ノ文化カ受クル地理的影響モ亦異ナラサルヲ得ス希臘今日ノ衰勢ハ蓋シ之レニ因ルト

(Ratzel, Anthropologie I² S. 102 f.)

次ニ第二ノ觀念即チ文明ノ力能ク自然ヲ克服スルヲ得トスルモノニ對シテ、吾人ハ答ヘテ言ハン、人類カ自然ヲ克服シ得ルハ事實ナリ、然レトモ理想論者カ言フ如ク自然ヲ無限ニ克服スル如キハ果シテ爲シ得ヘキナランヤ、若シ爲シ得ヘシトセハ彼ノ經濟學上ノ所謂地力遞減法ノ如キハ其存在ヲ許サレサルヘキ筈ナリ、然ルニ不拘此法則ハ文明ノ進歩益々大ナルニ從テ愈々顯著ナリト云フヲ以テ見レバ、是レ實ニ人力カ到底自然ヲ克服シ盡スヲ能ハサルノ反證ニアラスヤト、然ラハ現實論者ノ所說ハ如何、是亦誤レリ、何トナレハ近世ノ哲學思想ニヨルニ

人類ハ自由意志(Free Will)ノ存スルコトヲ以テ特色トス、自由意志ハ或點ヨリ見レハ人カ自然ノ爲メニ制セラレサルヲ云フ、故ニ若シ人カ絶對的ニ自然ニ抑制セラ
ルルナラハ、是レ人類ノ意味ヲ失フモノニシテ固ヨリ正當ノ所說ニ非ス、(Stucken-
berg, Sociology. pp. 60) 而カモ事實上ヨリ見テ人カ自然ヲ克服スルコト亦歷々ト存
スルヲ見レハ、此所論到底其成立ヲ許ササルナリ

二極端派ノ誤謬夫此ノ如シ、眞理ハ期セスシテ中間ニアリ然レトモ吾人ハ敢テ
此兩派ノ折衷說ヲ出サントスルモノニ非ス、吾人ハ飽クマテモ自然ハ文明ヨリモ
經濟ニ及ホス影響大ナリト信スルモノナリ唯現實論者ノ如ク自然ハ人類ノ生活
ヲ統制スルモノナリトハ言ハス、之レヲ局限スルモノナリト言フ、理想論者ノ如ク
人ハ自然ヲ克服スルモノナリト言ハス、之レヲ利用スルモノナリト言フ、局限ト云
ヒ利用ト云フモ其自然ニ從ハサルヘカラサルハ則チ一ナリ、人類ハ到底自然ニ依
ラスンハ其生ヲ保ツコト能ハサルナリ、シユモラー曰ハスヤ「人類ハ永久ニ地球ノ
寄生物ナリ彼ハ唯地球ニ纏着シ其最モ豐饒ナル位置ヲ求メテ發達シ得ルニ過キ
ス」ト、(Schmoller, Grundriss I. S. 138 f.) 藉リテ以テ吾人カ自然ト經濟トノ關係ニ對スル
斷案ニ代フト云爾、